

海外安全対策情報（ポルトガル・2024年4月～6月）

1 治安情勢等及び邦人被害の状況

(1) 治安情勢等

ア 2023年の犯罪発生状況

2023年の一般犯罪認知件数は371,995件で、前年比8.2%（28,150件）増加し、新型コロナウイルス感染拡大前の2019年と比較すると10.8%増加しました。

凶悪重大犯罪の認知件数は14,022件で、犯罪全体に占める割合は3.8%です。前年比では5.6%増加しましたが、2019年と比較すると2.6%減少しました。

認知件数が増加した犯罪の中では、特に路上強盗及びひったくり強盗が目立ち、凶悪犯罪全体の52%を占めています。

増加傾向が目立った犯罪としては、クレジットカード等の不正使用が前年比67%（10,386件）、麻薬・薬物の密売が20.1%（7,550件）、商業施設等に対する窃盗が16.7%（8,279件）それぞれ増加しました。

イ 2024年の犯罪発生状況

(ア) TIKTOKを利用した詐欺

治安警察庁（PSP）は、TikTokを介した仮想通貨投資詐欺“Pig Butchering”に関して注意喚起をしています。見知らぬ人からのメッセージには応答しないよう気を付けてください。

(イ) 新たな住宅侵入盗の手口

PSPによると、外国人グループによる新たな手口の住宅侵入盗が増加傾向にあります。

高齢者や身体障がい者などの弱者を狙って、2～4名の少人数で住宅に押し入るもので、被害額は20万ユーロに達しています。

広告等の配布を装い、「コップ一杯の水が欲しい」などと言って住宅に入り込み、被害者の隙をみて金品（宝石や現金）を盗んでいます。

子供を連れて、被害者の警戒心を和らげる手口も報告されています。

(ウ) リスボン市内のホームレスの増加

リスボン市内アロイオス地区アンジョス教会前の広場には以前からホームレスが多くいましたが、最近には特に難民認定申請をしているセネガルやコンゴ、ガンビアなどの出身者が路上生活をしているケースが多いとの報道があります。リスボン市役所は警察等と協力してホームレス対策に乗り出しています。

(エ) 交通犯罪認知件数

今年1月から5月までの交通事故の発生件数は22,708件（前年同期比234件増加。死亡者31名。重傷者277名。軽傷者6,737名。）でした。

交通違反摘発数は80,419件で、スピード違反が13,301件、酒気帯び運転は1,451件でした。

(オ) リスボン市内の速度違反

リスボン市役所によると、市内に設置されている速度自動取締装置が2022年6月から2024年4月末日までに摘発した違反は54万8880件で、過料総額は1千万ユーロ超です。最も違反の摘発件数が多い取締装置は、Lusiada通りで、約8万件に達します。

(2) 邦人被害

2024年4月から6月の間、大使館に届出があった邦人の犯罪被害は、盗難が7件でした。リスボン市内アルファマ地区、ベレン地区、バイシャシアード地区、ポルト市内セー地区といった観光地の路上、ケーブルカー内、店舗内での被害が散見されます。

路上や観光スポットはもちろん、ホテルのロビーにも窃盗グループが常駐し、犯行の機会を窺っています。常に視界に入る場所にバッグを持ちましょう。

ア 4月（すり1件）

ショルダーバッグから財布や旅券を盗まれたもの。

イ 5月（すり1件）

リュックを開けられ、財布や旅券を盗まれたもの。

ウ 6月（すり4件、車上ねらい1件）

リュックやショルダーバッグから財布や旅券を盗まれたもの。

駐車中の車両の窓ガラスを割られ、車内から旅券等の入ったリュックを盗まれたもの。

2 報道された主な凶悪犯罪

(1) 強盗

ア 路上強盗

- 4月22日午後、リスボン市内アルファマ地区に住む61歳の男性がバイクに乗った2人組に襲われ、約2万ユーロの腕時計を強奪された。男性は頭部を拳銃で殴られるなどして軽傷を負い、病院に搬送された。
- 5月7日午後9時50分過ぎ、シントラ市ベラス地区の路上を歩いていた男性が、突然現れた2人組に拳銃を突きつけられ、携帯電話や財布を奪われた。
- 5月13日午前、リスボン市内マルティンモニス広場において、男性2名が2人組の犯人に所持品を奪われそうになり、もみ合いになった。被害者2名は犯人にナイフで切り付けられて軽傷を負い、犯人は逃走した。
- 5月21日午前2時30分頃、リスボン市カイス・ド・ソドレ地区で、男性が7人組に刃物で切り付けられ、携帯電話や財布を奪われた。
- 5月26日、リスボン市カイス・ド・ソドレ地区で通行人2名に暴行を加え、所持品を奪った男女4名（19歳から28歳）が逮捕された。
- 5月26日午後、リスボン市内リベルダーデ通りで、外国人観光客の夫婦が、バイクに乗った2人組の犯人に拳銃を突き付けられ、5万ユーロ相当の高級腕時計を強奪された。2人組は事前に高級ホテルに宿泊する被害者を物色し、その行動を監視していたとみられる。2人組は、3月から5月にかけてリスボン市内アルファマ地区及びラト地区、ポルト市内などでも同様の手口で金品を奪っている。
- 6月2日午後10時50分頃、リスボン市アルバラデー地区で、女性が背後から男に羽交い絞めにされ、携帯電話を奪われそうになった。
- 6月21日夜、ポルト市内ルイス1世橋上で、外国人観光客が3人組に暴行され、800ユーロ相当の携帯電話を奪われた。

イ 住宅対象強盗

- ・ 4月29日午後9時過ぎ、オエイラス市リンダ・ア・パストーラ地区にある住宅に4人組が押し入った。35歳の男性を金づちで殴るなどして、現金4千ユーロなどを奪って逃走した。
- ・ 5月21日午後11時過ぎ、マトジーニョス市レッサ・ド・バリオ地区にある住宅の窓ガラスをバールで割って、覆面をした3人組が室内に侵入し、78歳の女性の頭部をバールで殴って、トイレに閉じ込めた後、室内を物色した。総額15万ユーロ相当の金品が奪われた。

(2) 窃盗

- ・ 4月23日、リスボン市内バイシャ地区で男性観光客のリュックから850ユーロ相当の金品を盗んだ27歳から42歳までの男3名が逮捕された。同地区では、直近の5日間に9名の窃盗犯が逮捕されている。
- ・ 6月7日午前3時過ぎ、リスボン市内ロシオ広場において、イタリア国籍の観光客が手に持っていたスマートフォンを男性にひったくられた。犯人は通報により駆け付けた警察官に逮捕された。
- ・ 6月24日、警察は、ポルト市内エンリケ航海王子広場（Infante D. Henrique）において置引きをした容疑者2名を逮捕した。

(3) 発砲

- ・ 5月13日午後10時40分頃、シントラ市にあるケルス・ベラス駅近くに集まっていた若者の集団と二輪車に乗って現れた2人組が口論となり、その後、二輪車に乗っていた男がグループに向かって発砲し、21歳の男性が背中を撃たれて病院に運ばれた。
- ・ 6月13日午後8時45分頃、リスボン市内カイス・ド・ソドレ駅前で、25歳前後の男性が通りかかった乗用車内から発砲され、両足を撃たれて病院に搬送された。その後、グループ同士の乱闘騒ぎとなったが、警察が駆け付けたため、逃走した。

3 テロ・爆弾事件発生状況

ありません。

4 誘拐事件発生状況

外国人を標的とした政治目的、身代金目的等誘拐事件の把握はありません。

5 対日感情

良好です。

6 日本企業の安全に関する諸問題

外国籍（日本資本を含む）企業が、犯罪に巻き込まれた情報の把握はありません。